

『宋書』倭国伝に記された倭の五王ごおう

興こうが死去して、弟の武ぶが（王位に）立った。使持節都督とくわ倭・百濟くだら・新羅しらぎ・任那みな・加羅から・秦韓しんかん・慕韓ぼかん七国諸軍事安東大將軍倭国王と自称した。

（武は）順帝の昇明二（四八七）年に使者を派遣し、文書を差し出して言った。「わが国は（宋そうから）遠く、（宋の）国外に領域を形成しています。昔から祖先は自ら甲冑ちゆうを身につけ、山や川を（越えて）歩き回り、安住することはありませんでした。（その結果、）東方では毛人（東国の人々）を征伐せいばつすること五十五か国、西方では衆夷しゅうい（多くの「異民族」）を服属させること六十六か国、海を越えて北方（朝鮮半島をさすか）を平定すること九十五か国……。」（順帝は）命じて、武を使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王に任じた。